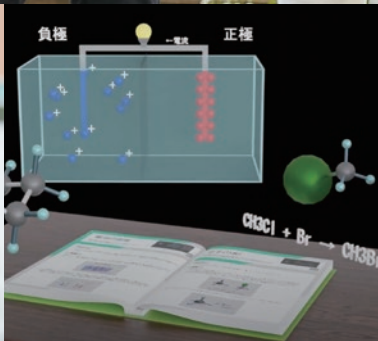
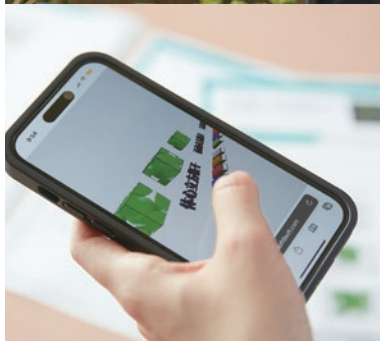


## 化学の3D教材を制作し、ビジネスコンテストで入賞

小学生の頃、先生が図解してくれたイオンの仕組みが面白くて、化学を好きになったという古平君。大学の受験勉強で苦勞し、分子模型をデジタルデバイスで見られたらいいのに、と思っていた津田君。2人は薬学部の実習で出会い、意気投合。「結晶格子」「鏡像異性体」といった平面では理解の難しい内容を3DCGで「見える化」し、Webサイトで公開している。教材は小学生～高校生向けまでと幅広く、約40単元にも上る。「ただ暗記する勉強ではなく、化学現象の本質を考える力を養ってもらえたら」と話す。昨年は2つのビジネスコンテストで入賞も果たした。多忙な合間を縫って、いまも新たな教材を制作中。「アバターを活用し、細胞内に入り込んでもらい、DNAからタンパク質を作る過程を一人称視点で学ぶ仕掛け。今年中の公開を目指しています」



昨年出場し、入賞した「第19回キャンパスベンチャーグランプリ 東京大会」での様子

日刊工業新聞社提供

3D教材の制作は古平君、教材などの文章化は津田君と、それぞれの得意分野を生かして活動